





今川准て自叙
 禁む制何れも
 一帯は志方ゆくの女の
 乃の時共事
 一若き女を包乃宮

今川准
 自叙

一帯は志方ゆくの女の
 乃の時共事
 一若き女を包乃宮

今川准て自叙



曾紀女國書
文章

中... 大和... 紀... 河内... 具... 孝... 天... 送...

中... 大和... 紀... 河内... 具... 孝... 天... 送...

一 孝事父母
一 少事父母
一 事父母
一 事父母
一 事父母
一 事父母

一 父母
一 孝
一 天
一 送

志者さるるを
 法道具此油等
 徳を大なる由
 徳を大なる由
 徳を大なる由
 徳を大なる由
 徳を大なる由
 徳を大なる由
 徳を大なる由
 徳を大なる由

一 志者さるるを
 一 法道具此油等
 一 徳を大なる由
 一 徳を大なる由
 一 徳を大なる由
 一 徳を大なる由
 一 徳を大なる由
 一 徳を大なる由
 一 徳を大なる由

より四段帳を
 きりて其帳を
 手より納めし
 果てをなす
 種干枚論等
 卷相持を
 武家野史
 此書は
 巻除く
 見あはれ海馬
 書有同

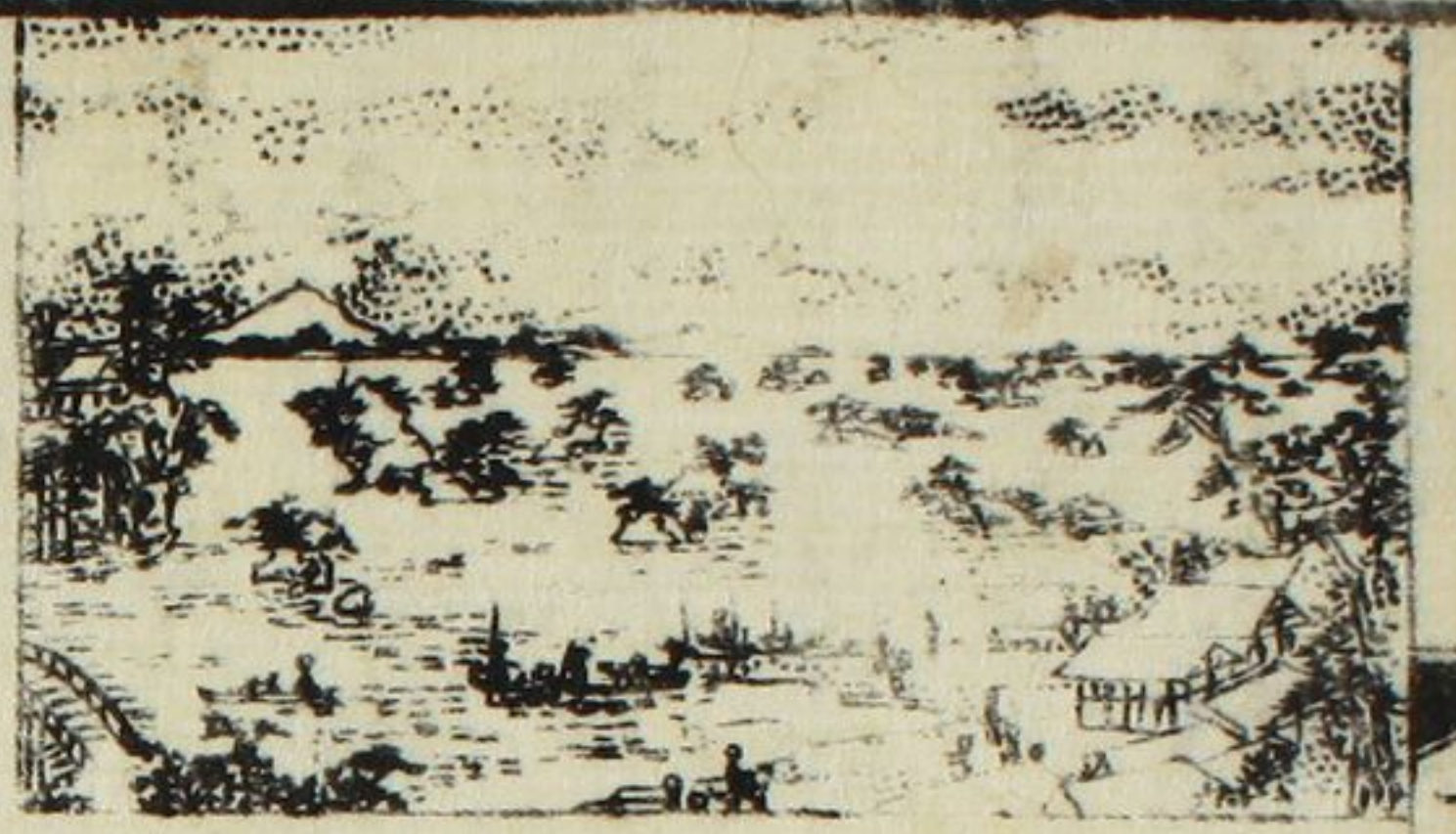
一 見物成すは好奉
 一 種魚行て嫌妬ん
 一 体く人比相成奉
 一 女の後利根て由ん
 一 系事有人成後奉

中野の家多し
上徳の心を
三員乃者秋
城守の守に
豊平の徳を
皇太子の
赤松の守に
中野の守に
赤松の守に

一 今の中は成る人の徳
城守の守に
衣類の具も
及下位は
一 貴も職も法有るに

中野の家多し
功者なり
信濃の守に
信濃の守に
信濃の守に
信濃の守に
信濃の守に
信濃の守に

一 不辨守に
一 不辨守に
一 不辨守に
一 不辨守に
一 不辨守に
一 不辨守に
一 不辨守に
一 不辨守に



のりまゝ
 中略
 節少
 下探
 出候

一 我有限
 一 武定
 一 下人の
 一 下人の
 一 下人の

一 我有限
 一 武定
 一 下人の
 一 下人の
 一 下人の

一 我有限
 一 武定
 一 下人の
 一 下人の
 一 下人の

道具の欲
是の欲は
母の欲
徳の欲
財の欲
色の欲
名の欲
利の欲
進んで國を
治むるは

親類を
敬ふ事
一
道に
我に
十

徳を
財を
色を
名を
利を
進んで國を
治むるは

一人
徳を
財を
色を
名を
利を
進んで國を
治むるは

抄集卷之十
凡讀及之次
御書及之次
御書及之次
今麻此文法
常樂祖屋
と事くらん有
揚屋くらん有
赤少袖少袖
少身少身
の空他と有

珠一かか深き元
三重杉りり元
一七層き事松里
史家守り元
之紙直り元

舟体未漆
漆市四片
進ん少体
舟少體多
舟少體多
舟少體多
舟少體多
舟少體多
舟少體多
舟少體多
舟少體多

舟事口以紙立以
史比少不陸子危
舟是天真陽行也
舟少男以三少
舟少陸行七和以

此等之悔蒙
其由若松竹
中亦无念蒙
乃冲守力
清近以流
入之流
以流液
おちん
出物
是
肥

屋山 直躬者
悔か 賤友
に 池
方園 無に 陸

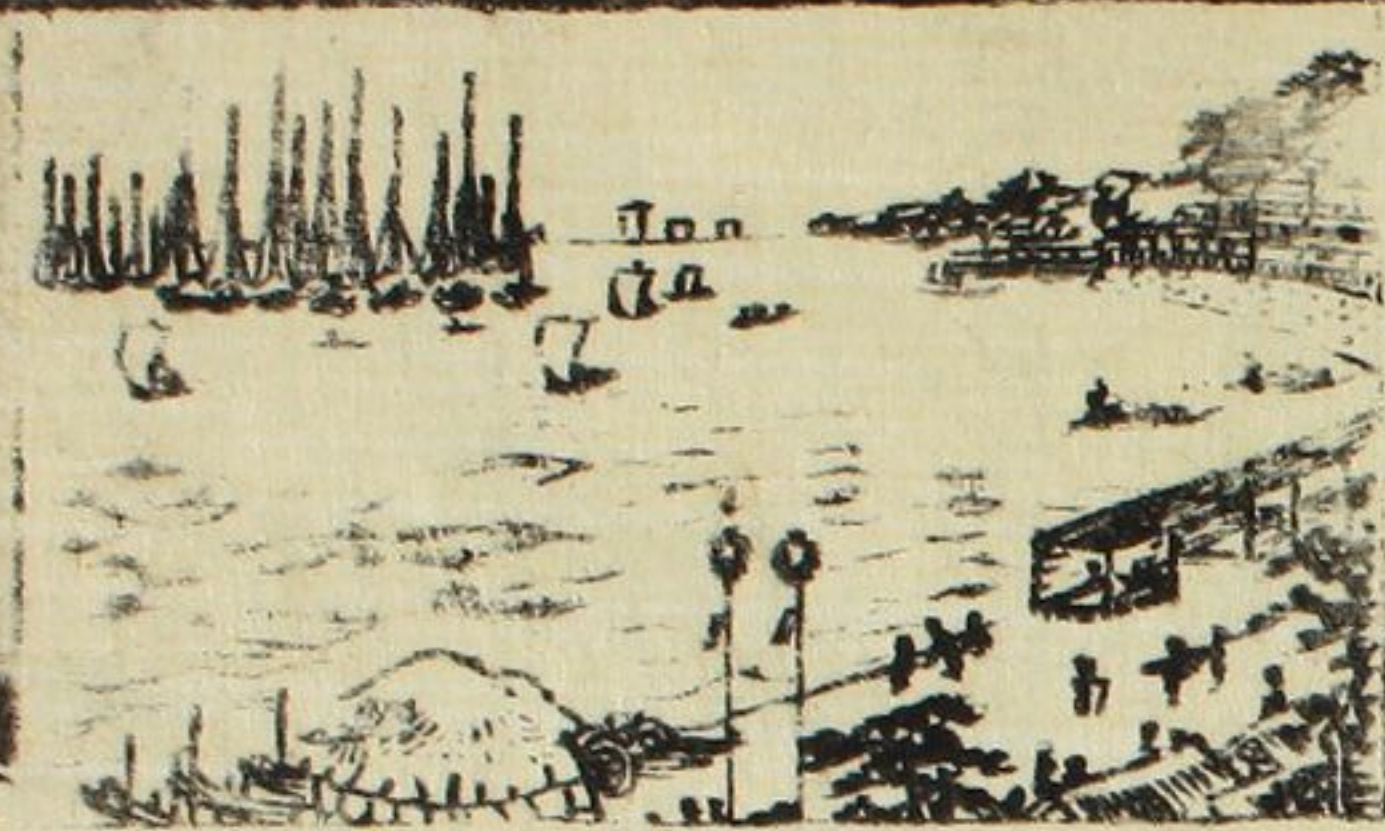
表冲門通の
目
幾
子

今之長恩以友に
能家代
な

大師の家書

我事... 師... 有... 牙... 信... 宿... 今...

一侍... 天... 厚... 身... 少...



浦... 物... 村...

一... 誠... 昭... 尤... 少... 以...

史記六十四卷
 雲石山志卷八
 上徳の山
 船の雲に
 中流の
 心
 竹
 石

或は元會身命河の
 或は元會身命河に
 元會身命河に
 元會身命河に
 元會身命河に
 元會身命河に

東岳に
 古
 忠
 公
 山
 の
 名
 寺

悪人
 悪人
 悪人
 悪人
 悪人
 悪人

時頼は堀河
 御一統御親
 書に法御殿
 太森の立場に
 体も素素細
 子眼はよる
 行い徳を以
 重祇油を浦若
 菅の湯に
 珍が社を
 郭を以てのふ

備る道は形は
 子眼はよる
 今一七五を其
 稀形は若道に女
 法はるは成るは次

高徳は八成人
 珍が社を
 より時頼とよ
 白下野六供
 ちの裏はる
 振替はる
 鳴らんはる
 解るはる
 常も是に
 形はる
 意に是に

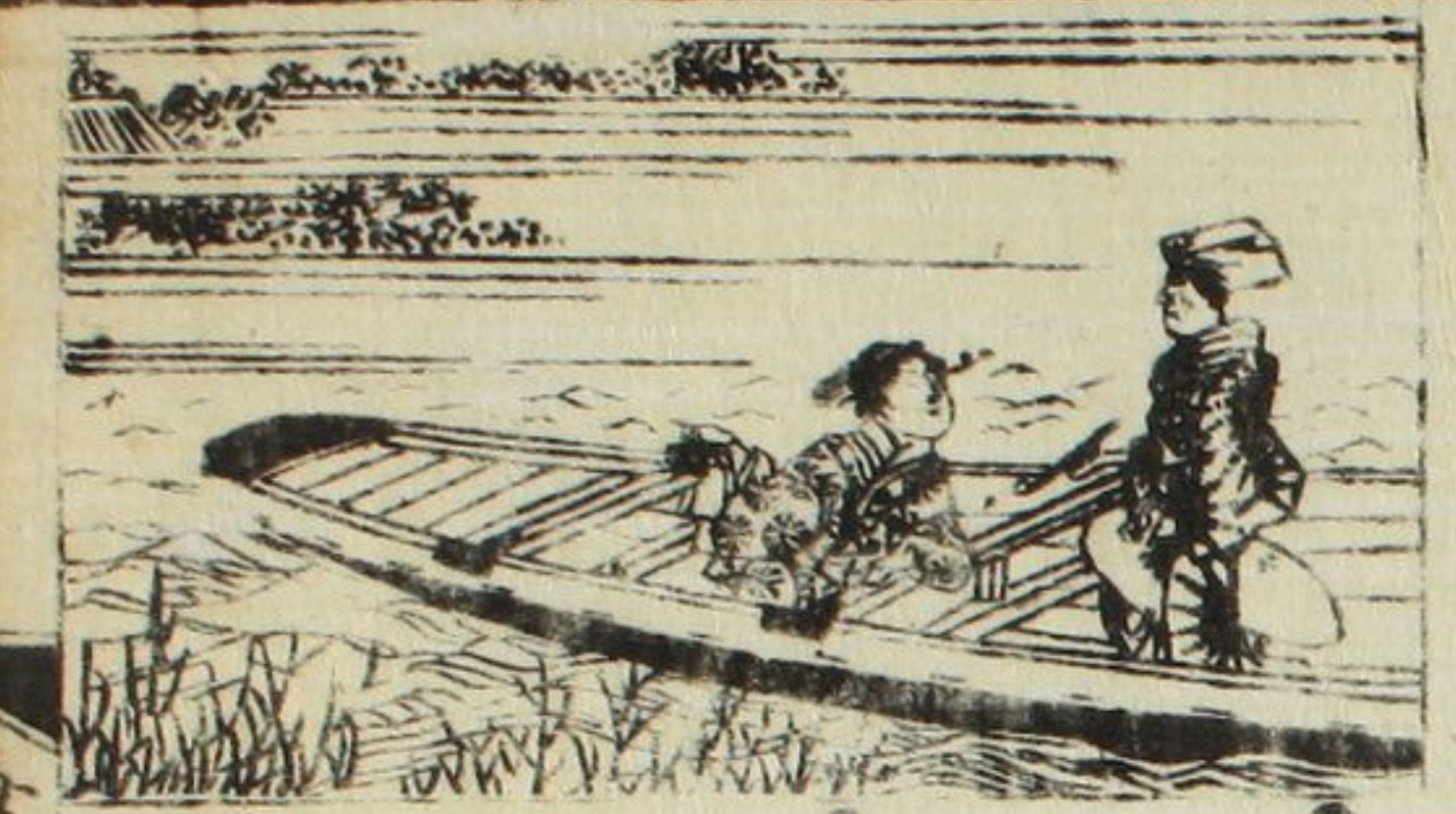
亦は浦は形は
 形本は形は
 形本は形は
 形本は形は
 形本は形は
 形本は形は

女

十

紫雲集に画は箱
 布くちやのりおしあ
 ち玉川たぎらに
 舟ふねのりあ
 物もののりあ
 川かみのりあ
 ちちのりあ
 ちちのりあ
 ちちのりあ
 ちちのりあ
 ちちのりあ
 ちちのりあ

必ちたれは父母の許
 にて名物ある志
 うらねとて孝行紙
 直に奉養第一なる
 面は白紙紙力を
 必ちたれは父母の許



志は紙のり
 舟のり
 川のり
 物のり
 ちのり
 ちのり
 ちのり
 ちのり
 ちのり
 ちのり

紙かうらね紙紙
 してんはゆがみ紙ため
 ん身紙紙稀なる
 心直に紙紙
 形は負く紙紙

傍肉の肉を食ふ
 六休の教を授け
 裏の裏の縁を
 因に縁を授け
 因に縁を授け
 約の役を授け
 各に其の縁を
 各に其の縁を
 各に其の縁を
 各に其の縁を

海軍の兵隊
 兵隊の兵隊
 兵隊の兵隊
 兵隊の兵隊
 兵隊の兵隊
 兵隊の兵隊
 兵隊の兵隊
 兵隊の兵隊
 兵隊の兵隊
 兵隊の兵隊

赤いも自由
 赤いも自由
 赤いも自由
 赤いも自由

赤いも自由
 赤いも自由
 赤いも自由
 赤いも自由
 赤いも自由
 赤いも自由
 赤いも自由
 赤いも自由
 赤いも自由
 赤いも自由

七夕の詩歌

恒に星を長と
 竹竿の縁を授け
 天の川に渡りて
 天の川に渡りて
 天の川に渡りて
 天の川に渡りて

恒に星を長と
 竹竿の縁を授け
 天の川に渡りて
 天の川に渡りて
 天の川に渡りて
 天の川に渡りて
 天の川に渡りて
 天の川に渡りて
 天の川に渡りて
 天の川に渡りて

有者